

慶應陸上競技倶楽部(OBOG会)活動報告

2021年(定時総会后)の主な活動につき以下の通りご報告いたします。

1. 「記憶を記録に」プロジェクト (詳細は別紙ご参照)

・競走部活動の歴史を記録して後世に繋げる、・過去の貴重な資料の散逸を防ぐための仕組みをつくる、ことをミッションにプロジェクトスタートした。まずは、70歳以上(246名)の会員の皆様にプロジェクトの発足をはがきで告知し、ご協力をお願いした。現在、3名の方々からお話を伺うことができ、関連資料なども頂戴している。引き続き、漸次、お話を伺い、原稿整理・文書化を進め、配信していく予定。また、プロジェクトを進める中で、「活動の歴史を語る、貴重な物品・資料」の散逸を防ぐ必要性を強く感じ、散逸回避の仕組みの構築を検討している。

2. 現役活動支援について

(1) 練習環境整備 (詳細は別紙ご参照)

従前の決定方法を変更し、支援部会がパート毎に現役部員ニーズを直接確認しながら、現役部費との仕分けなどを行い、支援内容を現役部員と検討した。酸素カプセル、プライオボックス、マッサージガン、カメラ・望遠レンズ等を購入(計96万円)し、3月末までに納品まで完了している。

(2) 現役支援の新たな仕組み作り

競技環境への整備など競技力向上に関わる財政力強化は喫緊の課題となっている。新たな支援資金調達の方法や使途の決定方法について、箱根駅伝プロジェクトへの関わりも含め、大学との連携を整理しながら新たな仕組みの検討を進めている。

3. 競走部グッズの販売

秋冬シーズングッズとして、フリースとウィンドブレーカーを販売した。また、エンブレムの納品も完了した。

4. 就活支援

学生ヒアリングにおいて要望の強かった「オンラインでのグループディスカッション対策」についての情報提供を支援した。

5. 大会への応援

無観客開催の全日本インカレ、早慶戦、箱根駅伝予選会は、オンライン・TV中継を通じての応援を呼びかけた。10月末の「オール慶應陸上祭」は、人数制限・健康管理等の感染防止対策を徹底した有観客での実施となり、久しぶりに日吉グラウンドにて現役部員の元気な姿を応援することができた。

また、箱根駅伝本戦(無観客開催)学生連合チームでの田島公太郎選手出場に際しては、倶楽部会員だけでなく沿道三田会にも出場を案内し、TV中継を通じての応援やラッフルチケット募集等を呼びかけた(詳細は、定期的に配信している箱根プロジェクトニューレターをご参照)。

2022年は、六大学対抗戦(4月9日、日吉競技場)に続き、関東インカレ(5月19日~22日、新国立競技場)も有観客での開催を前提に準備が進んでおり、リアルで安全な応援をご案内する。

6. 2022年度定時総会

2022年6月16日に、オンラインで開催することとした。

新4年生が1学年時の後半にコロナ禍が始まり、新3年生以下はコロナ禍の学生生活しか経験しておりません。今年こそは制約の少ない環境で存分に練習し、有観客の公式戦の雰囲気を感じるなど、学生競技生活を存分に味わってほしいと願っております。

引き続き物心両面からご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以上

2022年4月

慶應陸上競技倶楽部 常務理事 高野裕子